

日本の美意識の核心は清らかさ（すがすがしさ）、その清らかさを表現してきたのが白。白にこめられた清らかさを最も取り込んでいる地名がさらしな。さらしなには清らかさそのものの景観があり、月の都の称号も。名実ともに清く白く、だからさらしなはスーパーブランド地名 日本の美の核心があるさらしな

「さらしな」スーパーブランド地名への歴史

version 2021/2/17

令和	平成	明治-昭和	江戸	戦国	室町	南北朝	鎌倉	平安	奈良				飛鳥							
新元号の 出典元 万葉集		塚田小右衛門	松尾芭蕉	豊臣秀吉	足利義政	宗良親王	後鳥羽上皇 九条良経 さらしな再発見	桓武		聖武	元正（元明の娘）	元明（文武の母）	文武	天智	天武	舒明（万葉二番歌 国見歌）	推古（初女帝）	雄略（大長谷命、 万葉一番歌）	卑弥呼	天皇
2019～	1988～		1688			1336-92	1192～	794～1192	700-800年代	749～	724		697	690-697	673-686	668-672		5	3	
千曲市が「月の都」で日本遺産20年6月	千曲市誕生03 更級郡消滅05 仏オペラ上演08 さらしなルネサンス14	更級村誕生1889	更科紀行の旅 虎屋の更科・新更科 京都東山に「新更科」 追分の分去れ碑 さらしなそば 京都御所「更科里」			南朝 吉野山を拠点	源平の争乱後	平安京	坂上田村麿・征夷大將軍	「宝亀」改元770 （白亀献上）	飢饉	平城京710	飛鳥浄御原宮 信濃複都計画	吉野離宮 駅路建設	善光寺創建642	乙巳の変645 「白雉」改元650 白村江の敗戦663	仏教伝来552	白彦皇子と黒彦皇子殺害		出来事
さらしな学連続講座、学校への出前授業	動く絵本「さらちゃん」ニューチューブ公開		さらしなの里友の会 更級人「風月の会」 「さらしな歩き」（川西振興連絡協議会） 地名遺産さらしな 「美しささらしな」 絵本「さらちゃん」	姨捨の新田開発 さび 余白の美意識 清酒「白鶴」「白雪」「白鹿」	世阿弥謡曲「姨捨」 わび 白の庶民化		東大寺再建 新古今和歌集	竹取物語 古今和歌集（905、紀貫之ら編纂） 大和物語（10世紀半ば） 更級日記（11世紀半ば） 雪月花の美意識	東北経営軍事にかかわった大伴氏紀氏ともに没落貴族 冠着山肩部通過の東山道支道（蝦夷対策の重要連絡路）	万葉集（大伴家持編纂） 続日本記797	東大寺、国分寺建立	伊勢の式年遷宮 万世一系（天皇は神） 天照大神・月↓太陽 律令制度（藤原不比等） 万葉集の編纂始まる	東国経営本格化（東山道、馬・軍事拠点の信濃） 道教（神仙思想） 修験道	大化の改新（藤原鎌足） 屋代に最初期国府？ 科野国に更級郡誕生	国号・倭↓日本 国史編纂の詔勅 東国経営本格化（東山道、馬・軍事拠点の信濃） 修験道	スメラミコト（天皇 神の清らかな言葉を聞く者）		実績		
	住民アンケートで千曲市 19346票、更科市 17580票 LADY SARA SHINA 「科野さらしなの里千曲」（千曲市観光振興計画）		月のみか露霜しぐれ雪までさらしならせるさらしなの里（佐良志奈神社） 白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まずただよふ（若山牧水） 更級のみ坂をこえて秋風の千曲河原は眼に白きかも（太田水穂）	われ未だ更級の月を見ず候ほどにこの秋思いたち姨捨山へと急ぎ候（中略） さてもわれ姨捨山に来てみれば嶺平らかにして万里の空も隔てなく… 月今宵音羽の山の音に聞く姨捨山の影も及ばじ（細川藤孝 幽齋） さらしなや雄島の月もよそならんただ伏見江の秋のゆうぐれ（秀吉） 曇るとも照るとも同じ秋の夜の其の名は四方にさらしなの月（伊達政宗） 倂や姨ひとりなく月の友 「鏡台山」の発見（姨捨十三景） 一夜さは我さらしなよさらしなよ（一茶） さらしなは右吉野は左にて月と花とを追分の宿 姨捨の山ぞしぐれる風みえてそよさらしなの里のたかむら 津の国の伊丹の里ゆはるばると白雪来るその酒来る（若山牧水）	さらしなの月みてだにも我はただ都の秋の空ぞ恋しき この里に旅寝しつべしさらしなや月を都の同じ空とて	さらしなの山の高嶺に月さえてふもとの雪は千里にぞしく（九条良経） 雪白きよもの山辺をけさ見れば春のみ吉野秋のさらしな（九条良経） み吉野は山も霞みて白雪のふりにし里に春は来にけり（新古今・巻頭） さらしは心の中の里なれば月見るとに身を宿すかな（藤原信実）	わがこころ慰めかねつさらしなや姨捨山にてる月をみて（よみ人知らず） （信濃に行く人に） 月影はあかず見るともさらしなの山のふもとに長いすな君（紀貫之） （信濃守に赴任した夫、病死して） 月も出でて闇にくれたる姨捨になにとて今宵訪ねきつらむ（更級日記）	朝廷の東国経営によりさらしなの情報の集積↓「さらしな」の発見 「信濃の国さらしなの里の姨捨山」の誕生 あやしくも慰めがたき心かな姨捨山の月も見なくに（880ころ、小野小町） もしわが寺興復せば天下興復し、わが寺衰弊せば天下衰弊す ひさかたの天光る月の隠りなば何になぞへて妹を偲ばむ（2463） ひさかたの天照る月は見つれども吾が思ふ妹にあはぬころかも（3650） 多摩川にさらす手づくりさらさらならんのこの児のここのこだかなしき 信濃なるちくまの川のさざれしもきみし踏みてば玉とひろわむ 新しき年のはじめの初春の今日ふる雪のいやしけ吉事（4516） さらしなは再生イメー ジ音楽全体（三浦茂久）「古代日本の月信仰と再生思想」 建部大垣、親孝行で税金免除（768年）	里中満智子「天上の虹」主人公 春過ぎて夏来たるらし白たへの衣ほしたり天の香具山（万葉集、小倉百人一首） 飛鳥浄御原令 明、浄、正、直の位階名 屋代国府木簡に「更科郡司」	大阪・難波に捨てられていた百濟仏を本田善光が信濃国に運搬 更級郡の長谷寺、寺伝によると637年開山、開祖は白助 天皇中心の中央集権国家へスタート 「信濃国」の表記誕生 更級と埴科はきょうだい地名、科野が親地名	さらしなの里の白助と黒彦	信濃国の起源の科野氏（百濟系渡来人？） 森將軍塚古墳（4世紀後半） さらしなの里の白助と黒彦	特記事項（和歌）							